

〔新会長就任挨拶〕

会長 櫻井利浩



初夏の候、会員の皆様におかれましては、ご健勝の事とお喜び申し上げます。

会員の皆様には、第7回社員総会において、後藤和雄議長の下全ての議題をご承認頂き、無事終了出来ました事をご報告申し上げます。

前任の会長の任期満了に伴い、今回の定時総会において理事推薦を得て会長の職を賜りました。歴代会長が感じたであろう、身が引き締まる思いを今ひしひしと感じております。

前任の齋藤会長には、二期四年間に渡って社会的に歯科技工士の職をアピールし、会運営においてはボトムアップを目指してご尽力頂きました。本当にご苦労様でございました。

さて、任されました私達には、今やらなければいけない事が山積みしています。ボトムアップを受け継いで会運営を進めていきたいと思

っています。会員の皆さんと役員、理事のみんなの一人一人の胸の中にある課題を表に出して貰う事から始めたいと考えています。その上で今直ぐに取り掛かる事と、中長期的な事、長期で検討していく課題、に優先順位を付けて一つ一つ結果を出していければと思っております。

今回の総会において、中央地区長より地区の会員に向けたアンケートの結果を踏まえ、地区の編成について検討して欲しい旨の要望が出されました。この様な地区において切迫してきている課題を頂けたので、早急に検討していきたいと思えます。

また、例年の事業を考えながら、すでに動き出している事業としては、県歯科医師会よりご協力を頂き毎年行われてきている事業として、第40回を迎える県歯科医師会との共催学術講演会があります。この事業は全国的にも類を見ない本当に貴重な講演会です。新しく二人の理事を加えた誇れる学術部が、計画を練っております。節目の年の開催ですので楽しみにして頂きたいです。

そして、地域歯科の分野では、今年度から「コ デンタル」から「三団体」という文言に変わった県歯科医師会、県歯科衛生士会、県歯科技工士会としての連携関係を密に、協力関係を保って参ります。日技に対しても、地域の我々の現状を有りのままお伝えして、もっとスピード感を持って課題の打開に向けた活動をお願いして参ります。

役員理事の皆さんには、最大限のご協力をお願い申し上げ、私自身としても、当会の為に全力で会務に取り組む決意を致し、会長としても成長させて頂きたいと思っております。そして、会員の皆様にはこれから一期二年間、御指導とご協力を頂けます様宜しくお願い申し上げます。

結びに、山形県歯科技工士会を創立し、育て、守り、繋いで頂いた諸先輩の方々に、心からの敬意と感謝の意を申し上げ、就任の挨拶とさせて頂きます。

《第7回定時社員総会開催》

橋本千香子(中央)

平成30年5月20日(日) 山形市中央公民館にて、山形県歯科技工士会第7回定時社員総会が開催されました。

当日は、五月晴れの良い天気恵まれた中、齋藤会長の挨拶の後、後藤和雄氏に議長を引き受けていただき、出席者18名、委任状51名、計69名(総数103名)で総会が成立しました。

平成29年度の事業報告、会計報告、監査報告があり、続いて30年度の事業計画案、予算案が提案され、承認されました。今年度の四地区合同レクリエーションは、村山地区担当で、10月14日(日)最上川舟下りに決まったそうです。皆様奮ってご参加ください。今年は、任期満了に伴う役員改選があり、櫻井利浩氏が次期会長に選出され、総会で承認されました。その他の役員も顔ぶれが代わり承認されました。その他の議案として、中央地区長の平泉力氏より、「会員減少に伴い、地区単独での活動が困難になってきている。今後の地区活動をどの様にしていくべきか?」という課題が提案されました。

定時社員総会の後、連盟の総会が行われ、平成29年度 事業報告、会計報告、監査報告、30年度 事業案、予算案がそれぞれ承認され

ました。連盟も、任期満了に伴う役員改選があり、櫻井利浩氏が会長に承認されました。

総会終了後、昨年と同じ『オステリア・イルベッシュ』に会場を移動して懇親会が開かれました。お店では、技工士会とはすっかり顔馴染みになったドンキー佐藤さんに出迎えてもらい、給仕してもらいながら、いろいろお話を伺ったりして、美味しい食事と共に楽しい時を過ごしました。



【第39回共催学術講習会】

山形県歯科医師会、山形県歯科技工士会の共催学術講習会が、2月25日(日)に山形県歯科医師会館を会場に開催された。

今回は、関西から奥森健史氏と、日本歯科技工士会より会長の杉岡範明氏をお迎えした。



奥森氏には、「欠損補綴の目的から考える、機能させるパーシャルデンチャー・オーバーデンチャー」という演目で講演をして頂いた。パーシャルデンチャーの役割・目的である歯列弓の保全、生理的機能の回復、残存組織の保全、審美性の回復、を軸に、奥森氏が実際に手がけたケースを基に目に見えない力をコントロールするためのマウスプレパレーションの重要性や、様々な設計に対する考え方、知っておかなければいけない事、等について教えて頂いた。

続いて、杉岡会長からは「共に語ろう！歯科技工士のこれから」というテーマで講演をして頂いた。

自身が歯科技工士という職業に就く事になったきっかけから、日本歯科技工士会の歴史や、会長の仕事の内容などを紹介し、



歯科医療の役割の重要性や、歯科技工士としての立場などについて話され、「歯科技工士の辛い、厳しい面ばかり考えないで、もっとポジティブに希望の持てる素晴らしい仕事であることをアピールしていくべきではないか」という熱いメッセージを頂いた。

高度な技術を学ぶと共に、歯科技工士としての在り方を考えるいい機会になった一日であった。



新年 祝賀会

平成30年を迎えて本会の最初の行事である新年祝賀会が、1月27日(土)に山形グランドホテルを会場に開催された。

新年祝賀会に先立って、研修会と講演会も行われた。

研修会では、(株)ヨシダより石川氏を講師に迎え、「今考えるこれからのCAD/CAM」というテーマで講演をして頂いた。



「近年、歯科用金属の高騰により、CAD/CAM 冠のニーズが高まってきている。それにより、CAD/CAM の市場成長も著しいものがあり、各メーカーも力を入れている。我が社でも新型の機器を投入してニーズに対応している。口腔内のダイレクトスキャンカメラでは、患者さんの苦痛の一つである印象採得をすることなく口腔内データが得られ、PCに取り込んだデータでそのままデザインソフトで制作物をデザインし、ミリングマシーンで制作できる。」という

ものであった。価格も数年前と比べてかなり安くなっており、これからの歯科業界には必需品になるのではないかと感じた。



続いて、YBC ラジオでお馴染みのドンキー佐藤さんを講師に迎えて講演会が行われた。特に演題は決めずにフリートークでということで、ラジオと同じテンションで自身のこれまでに経験してきた事や、相撲の話、小林秀雄の本の話、など様々な内容で時折笑いも

交えて、賑やかに和やかな講演会となった。

新年祝賀会に入り、齋藤会長より「会員の高齢化も進んでいるため、それに合わせた会の活動の方向性を決めなければならない。今後、歯科医師会、歯科衛生士会、歯科用品商組合と共に歯科界を支えていけるように努めて参りたい。」と挨拶があった。



続けて来賓として、逸見良平山形県歯科医師会副会長より永田会長の挨拶として、「国の政策方針により、口腔内の健康が全身の健康に繋がるという事から、生涯にわたる歯科医療と歯科保健医療の充実を図るという事が明記され、歯科医療や口腔保健医療の重要性について国民的な理解が進み、歯科界にも明るい兆しが見えてきた。歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士の共同の歩調で県民の口腔保健の確立を目指していく事が必要条件である。」という言葉を受けた。

小野山形県歯科衛生士会会長の乾杯の音頭で新年祝賀会の宴が開かれた。和やかな雰囲気でも各々話も募り、美味しい料理とお酒を頂いた後、東北・新潟歯科用品商協同組合山形支部長の大沢巖氏の万歳三唱にて、名残惜しくも新年祝賀会が閉じられた。

